

ひまわり



令和4年11月14日(月)

言葉の戒め四力条



新型コロナ、インフルエンザが増加傾向にあります。密を避ける、換気に留意する、手洗い手指消毒、会話時のマスクの着用など、できる限りの感染防止対策をとりましょう。また、新型コロナ、インフルエンザともに、ワクチン接種は有効な感染拡大防止手段です。アレルギーなどで接種できない場合もありますが、接種を検討してみてもいいでしょうか。

とりわけ3年生については、保護者と相談して、積極的な接種を検討してみてください。

さて、以前、法事でお坊さんが来てくださった時に、「言葉の戒め四力条」という話をしてくださいました。言葉の大切さを考えるうえで、なるほどと思った内容ですので、皆さんに伝えます。

一つ目は「不妄語（ふもうご）」です。これは「嘘」をついてはいけない、ということです。嘘をつけば、それを隠すため、再び嘘をつくことがあります。それにより、嘘をついた人は苦しみ続けるのです。ただし、重い病に苦しんでいる人に、あえて本当の病名を知らせないことがあります。これは、苦しんでいる人を思いやっての方便（ほうべん）と捉えるべきでしょう。

二つ目は「不悪口（ふあくぐち）」です。これは「汚いことば」を使わないようにしましょう、ということです。「うざい」「むかつく」など、自分の吐いた悪口は、かならず自分に返ってくるそうです。裏返せば、優しい言葉、美しい言葉を発せば、それがよい形で自分に返ってくるのです。

三つ目は「不両舌（ふりょうぜつ）」です。これは「人が仲たがいするようなことを言わない」ということです。原因は、妬みや嫉妬でしょうか、自分が一番になりたいからでしょうか。SNSによりいびつな人間関係が散見される時代だからこそ、人と人をつなぐ思いやりのある言葉を心がけましょう。

四つ目は「不綺語（ふきご）」です。これは、意味のない無益なおしゃべりのこと。口先だけの調子のよい言葉を並べたてることも、これにあたります。言葉はそんなに軽いものではありません。

言葉を使い、互いに交流できるのは人間だけです。良い言葉は、他者を幸せな気持ちにさせることができます。しかし、心ない言葉や無益な言葉は、人を傷つけることを忘れてはなりません。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

